

# ぽっかぽか通心

2015/10/20 秋号

- 1、ご挨拶
- 2、松下幸之助1日1話
- 3、動画で解説シリーズを充実
- 4、お客様の声～ありがとうございます～
- 5、知って得するお役立ち情報
  - ①「住宅ローンを支払いながらも資産運用が必要である理由」
  - ②「住宅購入後の住宅取得者の耐久消費材購入実態」
- 6、編集後記  
おススメ本「103歳になってわかったこと」  
豆知識①②



## 1、ご挨拶

最近、上方落語に興味を持ち始めたFPの長谷です♪

上方落語が一芸として世に出たのは、今から約300年前の江戸時代中期と言われています。京都の露の五郎兵衛・大阪の米沢彦八が多くの人を前に道端に舞台を設けて自作の噺を披露し、銭を稼いだ『辻咄』と言うものが落語の起源になっています。

現在、上方落語協会に所属している落語家は270人もおり、天満の繁盛亭・新世界の動楽亭(=写真)でほぼ毎日落語が行われ、あべのハルカスにも寄席ができています。

日本の伝統文化に親しめる寄席に通い始めたばかりですが、大御所の桂文枝や笑福亭鶴瓶ではなく、お気に入りの若手落語家を見つけて応援していきたいです。2007年から2008年にかけて上方の落語界を舞台にしたNHK連続テレビ小説『ちりとてちん』に、「徒然亭草原(つれづれていそうげん)」という架空の落語家役で出演していた桂吉弥に注目しています。



## 2、松下幸之助 1 日 1 話

大変好評な松下幸之助先生の 1 日 1 話。(PHP 研究所：刊)

今回のお話も経営者の方は勿論、サラリーマンの方、主婦の方も参考になる点があると思いますので、一度読んでみて下さいね。

### 「 人情の機微を知る 」

人間の心というものは、なかなか理屈では割り切れない。理論的にはこうしたらいいと考えられても、人心はむしろその反対に動くということもあろう。一面まことに厄介と言えれば厄介だが、しかし、やはりある種の方向というか、法則的なものがあるとも考えられる。そうしたものを、ある程度体得できるということが、人情の機微を知るということになるのだと思う。

では、人情の機微を知るにはどうしたらいいか。それはやはり、色々な体験を通じて、多くの人々と触れ合うことである。そうした体験に立ちつつ、常に素直な目で人間というものを見、その心の動きを知ることが大切だと思う。

## 3、動画で解説シリーズを充実

ライフプランやお金に関して短時間で簡単に考え方をお伝えしている『動画で解説シリーズ』（ユーチューブに動画をアップし私のHPにも掲載）ですが、現在 51 本の動画を掲載し、のべ再生回数は 42,000 回を超えています。ここ数か月で、下記 4 本を新規で追加掲載しましたので、ご興味ある項目から視聴していただければと思います。勿論、無料です。ちなみに再生回数が一番多いのは、5 年ほど前に掲載した《老後資金の考え方》で約 8,700 回再生されています。

☆ 《 老後資金の考え方 》	5 分 5 0 秒
《 雇用の未来（10 年後になくなる職業仕事は？） 》	2 分 4 2 秒
《 ペットにかかるお金 》	2 分 4 4 秒
《 経済危機は 10 年に 1 回やってくる 》	3 分 4 1 秒
《 株式投資セミナー：配当利回りとは？ 》	3 分 5 6 秒 他

今後も新規動画を月数本のペースでアップしていきますので、楽しみにお待ちください。

## 4、お客様の声～ありがとうございます～

定期的に資産運用相談をご利用され、株式投資ベーシックセミナー・四季報セミナーにご参加されたお客様の声（大阪府堺市在住50代女性）

2年前、突然起こった相続によるいくばくかの資金の運用に悩んでいました。知識の無い私は、金融機関で過剰に商品を薦められるのも怖かったので、この際公平な立場でアドバイスしてくれるFPに相談するのが得策だと考えました。HPを検索する中で一番相談者側に立ったわかりやすい内容で親しみやすい印象を受けたのが長谷さんのサイトでした。

ドキドキしながらの初回の面談でしたが、長谷さんの柔らかい物腰と丁寧なお話を聞いて自分の直感は正しかったと確信したことを覚えています。また、長谷さんはとても聞き上手な方で、私のわずかでも母が残してくれた資産だからこそ大切に運用していきたいという意向をしっかりと受け止めていただいた上で、それに沿った最適のポートフォリオを作っていただく事が出来ました。

自分で資産管理をすると素人がこれでいいのかという不安が常にありますが、目まぐるしく変化する社会情勢を考慮する等プロの第三者的視点での確かなアドバイスを頂けるので現在も定期的に相談して安心を頂いています。

また、株も以前から興味があったものの始め方が分からなかったので、思い切って株式ベーシック講座と四季報セミナーを受講させていただきました。どちらも、初心者の私でも分かりやすく興味を引く内容で楽しく学ぶ事が出来ました。それ以降、今まで興味の無かった経済ニュースも気になりはじめ、自分の楽しみの範囲で少しずつ株を始めることが出来嬉しく思っています。これも長谷さんと出会えたおかげです。

長谷さん、これからも末永く良きアドバイザーとしておつきあい宜しくお願い致します。

### FP長谷剛史からのメッセージ

お忙しい中、嬉しいメッセージをいただきありがとうございます♪私の存在が安心に繋がっているとのこと、非常に嬉しく思っています。FP冥利につきますし、私のほうこそ感謝しております！今後とも末永いお付き合いの程よろしくお願い致します。

## 5、知って得するお役立ち情報

### ① <<住宅ローンを支払いながらも資産運用が必要である理由>>

#### 1、<消費者の不安と投資のイメージ>

国民の悩みや不安を調査した内閣府の「平成 26 年度国民生活に関する世論調査」によると、順位が高い方から①老後の生活設計について②自分の健康について③家族の健康について④今後の収入や資産の見通しについて⑤現在の収入や資産について、となっています。自分の健康よりも老後の生活設計が不安という驚くべき結果になっています。

#### 2、<インフレ>

インフレとは物の値段が上がり、同時にお金の値段が下がることでもあります。日本経済は長く続いたデフレからインフレへ移行しつつあり、低金利の預貯金だけでは実質的にお金がどんどん目減りしていくこととなります。このため、物価上昇率に負けない利回りを獲得することが今後の生活には必要になります。海外に目を向ければ、日本より金利が高い国もあります。

#### 3、<超低金利>

バブルの頃は 100 万円を郵便局の定額貯金約 7%に 10 年間預ければ苦もなく 2 倍の約 200 万円になりました。最近では都市銀行の 1 年定期で 0.025%と超低金利が続いています。物価上昇との比較では実質的に「元本割れ」しているのが現状であり、このような低金利では預貯金だけでお金を殖やしていくのは至難の業になります。

#### 4、<年金不安（老後不安）>

日本は高齢化するとともに少子化も進んでいます。現在の年金制度は現役世代が高齢世代を支える仕組みになっているため、少子化が改善されなければ制度自体の維持が難しくなります。また、年金制度でのマクロ経済スライドの導入及び実施により、今後は物価上昇と同じだけの年金受取額の増加が期待できなくなっています。税金・社会保険料・物価は上昇するけれども、受け取る年金は増加しないという仕組みができあがっています。

## 5、<まとめ>

家づくりをして住宅ローンを組むと返済することで頭がいっぱいという方は多いのではないのでしょうか？この上、資産運用にまでお金をまわせないという声が聞こえてきそうですが、上記3つの理由により少額でも良いので老後に向けて資産運用を実践する必要があります。

資産運用はどんどんお金を殖やすためのものではなく、「**将来の自分のためにお金を準備すること**」と定義してはいかがでしょうか？

### ② <<住宅購入後の住宅取得者の耐久消費材購入実態>>

家づくりの資金計画を考えると、住宅ローンの手数料・火災保険や登記費用等の諸経費を考慮する必要がありますが、**耐久消費材購入費用も計画に計上しておかないと家づくり完成後に資金が底をつくという事態に陥る可能性があります。**何にどの程度の購入費用が必要なのか住宅金融支援機構の住宅取得に係る消費実態調査で確認してみましょう。

住宅建築・購入後、概ね1年以内に購入した耐久消費材の平均的な金額は、一戸建て（新築）で約155万円となっています。想像以上の金額と思われた方が多いのではないのでしょうか？この金額だと車種によっては自動車購入費用と同じぐらいのお金がかかりますので、やはり考慮せず家づくりの計画を立てることはできません。

続いて購入世帯比率が高い品目と平均購入額をみてみましょう。

第1位：カーテン	68.5%	・ 16.3 千円
第2位：照明器具	58.5%	・ 19.6 千円
第3位：ルームエアコン	42.9%	・ 108.7 千円
第4位：じゅうたん・カーペット	41.1%	・ 16.9 千円
第5位：テレビ	33.8%	・ 102.2 千円

となります。これら以外では、ふとん・時計・食堂セットなどの購入比率が高いです。さらに、新築一戸建てだと太陽光発電システムの購入世帯比率は23.3%になります。



理想のマイホームを手に入れると、耐久消費財もそれに見合った新しい物を購入したくなるのかもしれませんが。私の相談経験上でも、今ある物を使う予定とおっしゃっていた方が、家づくり後に新品の耐久消費財を購入されるケースはよくあります。最低限必要な物は揃える必要はありますが、新しい家だからとまだ使える物を買替えるのかどうかを考えてみるのも良いでしょう。

また、耐久消費財以外に新居へ移る引越費用も頭に入れておく必要があります。新築一戸建て1世帯当たりの平均引越費用は14.1万円になります。引越の時期や荷物の量によって差はありますが、自分たちだけで引越作業をするのは困難ですから、引越費用の平均額ぐらいは見込んでおくのが無難でしょう。

家づくりをする方が増加すると、家だけではなく耐久消費財や引越等へも需要が広がり経済を刺激することになりますので、住宅ローン減税や贈与税の非課税制度等様々な優遇制度が設けられるのも納得できますね。

いかがでしたでしょうか？家づくりの資金計画を立てるときは、耐久消費財購入費用や引越費用等も考慮するようにしましょう。これらの金額も含め家づくりに係るお金の1割程度を諸経費として最初から見込んでおくのと安心できるのではないのでしょうか？

## 6、編集後記

### おススメ本『103歳になってわかったこと』

「読書の秋」ということもあり、私が最近読んで印象に残っている本をご紹介します。タイトルは「103歳になってわかったこと」で、その名の通り、103歳の現役美術家さんが書かれた本です。人生の大先輩からの言葉は心に響きます。読書ノートに下記の10個の言葉を書き写しました。

- ・自然の一部として生まれてきただけと思えば気負いがなくなる。
- ・未来永劫、全人類にとってありがたい母という存在。
- ・自分の目で見れば、新しい発見・新しい喜びがある。
- ・夢中になれるものが見つかれば、人は生きていて救われる。
- ・受け入れられるか、認められるかよりも行動したことに意義がある。
- ・予定や目標にとらわれるとほかが見えなくなるときには、その日の風まかせにする。

- ・なんとなく過ごす・なんとなくお金を遣う・無駄には次の何かが兆している。
- ・幸福になれるかは、この程度でちょうど良いと思えるかどうかにある。
- ・真正面だけではなく斜めからも見てみる。新たな魅力があるかもしれない。
- ・運命の前ではいかなる人も無力。だからいつも謙虚でいる。

もっと詳しく知りたいという方は、この本を読んでみてくださいね。おすすめです！

### 豆知識①『松下幸之助氏の株式立国論』

パナソニックの創業者である松下幸之助氏は、1967年「国民総株主化」を求める論文を公表しました。ここには株式投資を行う意義が書かれています。つまり、『株主は産業を発展させる使命感を持ち、見込んだ企業の株を永久投資のつもりで持つ。経営者は株主の叱咤激励を受け入れる。政府はそれらの環境を作る。産業が興隆し社会が繁栄すれば国民全体が豊かになる』という考え方です。

### 豆知識②『株主優待目的の株式投資は避ける』

株主優待を実施しているのは上場企業の約3分の1程度ですが、最近メディアで株主優待特集をよく見かけるようになり、株主優待目当てで株式投資をする方が増加しています。しかし、株主優待だけに注目して業績チェックを怠ると、たとえば食事割引券を手にしたけれども株価が半分になってしまったという事態に陥りかねません。株主優待は、投資企業に「あればラッキー」くらいの気持ちで考えるようにしましょう。

### ◀ ネット管理サイト ▶

現在以下のサイトを運営しお金に関する情報発信を行っています。皆さんが将来計画やお金に関して悩んでいるとき、ヒントになるかもしれませんのでお時間あるときに一度覗いてみてくださいね。

HP : 「長谷ファイナンシャルプランナー事務所」

ブログ : 「大阪堺市のファイナンシャルプランナーはせっちの日記」

メルマガ : 「FPが易しく教える暮らしに役立つお金の学校」【読者800人以上】

メルマガ : 「読まなアカン！人生がバラ色になるお金の特別講義」

ツイッター : 「fphase」【フォロワー3000人以上】

ユーチューブ : 「hasefp」51の動画をアップ

フェイスブック : 「長谷剛史」

